

市民の立場からの寄稿



Ecology or Egoism? ～21世紀のエネルギー社会～

佐々木由比

フルート奏者

〒819-1107 福岡県糸島市波多江駅北1丁目2-10-701

3月11日に日本で起きた「東日本大震災」。その一報をニュースで知った時、自然がもたらした凄惨な出来事が、多くの犠牲者を出した上に、東日本において電力危機を引き起こすことなど微塵にも思っていないませんでした。最も安全であると幼少時から教えられてきたエネルギーが、地震以降、様々な局面において深刻な事態を誘発しています。

私の主人（佐々木一成）は、水素エネルギーの研究に日夜勤しんでおります。「水素エネルギーこそが最も安全でクリーンである」と常に言っておりますが、私は最近まで、「私、もしかしてマインドコントロールされているのかもしれない・・・」と思っていました。物心ついたころから思い込んでいた「最も安全でクリーンなのは原子力エネルギー」。そうでないことが明らかになった今、私と同じように思っていた人々が、新しいエネルギーを心から受け入れることが出来るのでしょうか？

最近よく耳にするgreenwashingという言葉があります。Wikipediaの記述によると、

「greenwashingとは、環境配慮をしているように装

いごまかすこと、上辺だけの欺まんの環境訴求を表す。”安価な漆喰・上辺を取り繕う”という意味の英語whitewashingと、“環境に配慮する”という意味のgreenとを合わせた造語である。」エコを装いながら、実際にはコストを削減し利潤を追求する企業の体制を批判する表現のようです。

音楽家が、音楽を通じて人と一体感を感じる瞬間、それは演奏家の情熱が観客に伝わり、同じ感情を共有することが出来ているときなのだと思います。次世代エネルギーの場合においても、作った人（研究に携わる人）の自然環境に対する誠意や情熱が伝わらなければ、現在の日本の状況では、人々は原子力に代わるエネルギーを信じる事が出来ないかもしれません。

「エコがエゴにならないように」

水素エネルギーの研究に従事されている皆様へ、私からのメッセージです。

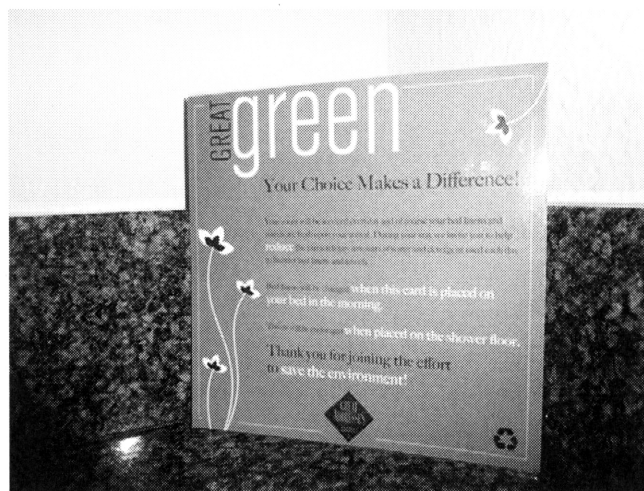


図1. Greenwashingcard (Wikipediaより)